

付録3

—「おかいもの革命！」コラム記事—

社会技術研究開発事業研究開発プログラム
「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」
平成23年度
「名古屋発！低炭素型買い物・販売・生産システムの実現プロジェクト」
研究開発プロジェクト年次報告書

中日新聞 朝刊 生活面 連載 おかひもの革命！コラム記事

目次

- ① 2011年6月1日 企業評価のガイドブック－問われる買う側の行動
- ② 2011年6月15日 地元の露地野菜を味わう－CO2排出減、高栄養価
- ③ 2011年7月6日 男女の目線で節電－システムで考え購入
- ④ 2011年7月20日 足るを知る－震災を機に意識変化
- ⑤ 2011年8月3日 保冷機能付きエコバッグ－夏でも「保冷剤は不要」
- ⑥ 2011年8月17日 三陸牡蠣復興支援プロジェクト－豊かな海を取り戻す
- ⑦ 2011年9月7日 靴は選ぶ時が肝心－足に合うか 最優先
- ⑧ 2011年9月21日 消費者リーダー養成講座参加を－社会変える実践学ぼう
- ⑨ 2011年10月5日 回収ボックス設置へ準備－使える不用品を寄付
- ⑩ 2011年10月19日 間伐材使用国産の割り箸－森林の整備費に貢献
- ⑪ 2011年11月2日 高級食器で自分もてなす－長持ちし手入れも楽
- ⑫ 2011年11月16日 簡易包装－消費者側から提案して
- ⑬ 2011年12月7日 紙製リーフパッカー－かさばらず、まな板にも
- ⑭ 2011年12月21日 土日は早く閉まるスーパー－「不便＝不幸せ」でない
- ⑮ 2012年1月18日 食卓からエコ－旬の野菜 家族一緒に
- ⑯ 2012年2月1日 チョコレボーチョコで世界とつながる
- ⑰ 2012年2月15日 国産木材の住宅－健康や環境にも配慮
- ⑱ 2011年3月7日 植物療法の実践－生活全般見直す機会に
- ⑲ 2011年3月21日 より良い買い物－一人ひとりが意識する

おかいもの革命！

中日新聞 朝刊 生活面 連載

① 2011年6月1日

② 2011年6月15日

おかいもの革命！

夏が旬な野菜といえば、トマト。写真やキュウリ、カボチャなど、太陽のエネルギーをいっぱい浴びた野菜が思い浮かびます。

地元の露地物
野菜を味わう

これらの野菜は私が子供のころは夏だけの野菜でしたが、今ではハウス栽培や輸入により、年中手に入るようになりました。技術や流通が発達した恩恵ですね。しかし、その時季にしか食べられない

おかいもの革命！

二十三年前、米国で「よい世界をつくるためのお買い物」という小さなガイドブック。写真がベストセラーになりました。そこには情報公開、自然環境への配慮など、商品を作っている企業の

企業評価の
ガイドブック

社会への姿勢を評価する内容が書かれていました。

多くの女性たちがハンドバッグに入れて買い物に行き、ケチャップを買うときはハイソックの評価を見て、清涼飲料水ではコカコーラとペプシの評価を比べたのです。結果、五

問われる買う側の行動

①

人中人が評価の低い企業の商品を選ばなくなりました。社会を変えるには政治や行政も大事ですが、消費者一人一人の行動も欠かせません。



日々の買い物で、野菜を上手に選び、商品を買く買うことができれば、環境問題の解決に貢献できるのです。

「おかいもの革命」では、楽しみながら、脱温暖化につながる買い物や暮らし方

②

CO₂排出減、高栄養価



野菜があった生活は「四季がある日本での豊かな食卓」と捉えることもできます。

また、多少離れた場所の野菜でも、露地栽培されたもの

を持つてきた方が、近くで高温栽培された野菜より、石油の使用量から考えると、生産から食卓に並ぶまでの二酸化炭素(CO₂)の排出量が少ないという試算(名古屋環境科学研究所)もあります。

旬の野菜は栄養価が高いだけではなく、地球に優しいともいえます。地元産の野菜なら、野菜を遠距離輸送する必要もなくなります。今の時季、中部地方でも地元のキュウリやトマト、ナスが出回り

ます。旬を楽しみたいですね。

(永田潤子・大阪市立大学院創造都市研究科准教授)

のこつをお伝えしていきます。政治や誰かに任せるのではなく、私たちが暮らすの今にできることがたくさんあります。東日本大震災が起きた今だからこそ、その可能性を探ってみませんか。

(永田潤子・大阪市立大学院創造都市研究科准教授)

ながた・じゅんこ 1961年福岡県生まれ。海上保安大学校に入学し26歳で女性初最年少の巡視船船長に。97年に海上保安大学校助教授、2003年から大阪市立大学院准教授。科学技術振興機構(JST)に採択された「名古屋発、低炭素型買い物・販売・生産システムの実現」プロジェクト(08~13年)の研究代表として、消費者と生産者、流通販売者の協働による低炭素社会の構築を目指す。

おかいもの革命！

中日新聞 朝刊 生活面 連載

③ 2011年7月6日

④ 2011年7月20日

おかいもの革命！

私が研究代表を務め、現在進めている「名古屋発ノ低炭素型買い物・販売・生産システムの実現」プロジェクト

足るを知る

の二環で、全国の女性約五百人に「震災後の買い物」についてウェブアンケートをしました。震災後の変化を自由記述方式で尋ねたところ、「買用量が減った」と答えた方が

震災を機に意識変化

④

二割いました。理由は「節電のため、冷蔵庫に詰め込まない」「ほかの人も買えるよう買い占めな



い」でした。意識するようになったことでは、「無駄を出さない・必要な物か考える」が二割。「変化なし」は四割

で、その大半は「もともと買いためや無駄な買い物をしない」方でした。回答を読みながら「足るを知る」という言葉が浮かんできました。この仏教の言葉は、ひと言では語れない深い意味がありますが、震災後は、多くの方が単にお金を浮かす「節約」を超え、「自然や他者とのつながりの中で限りある資源を大切に使うこと」を実践し始めているように感じました。

(永田潤子・大阪市立大大学院創造都市研究科准教授)

おかいもの革命！

マーケティングの世界では、日用品や白物家電(洗濯機や冷蔵庫などの白色の製品)の購入決定権を持っているのは、ほぼ女性。家や車な

男女の目線で節電

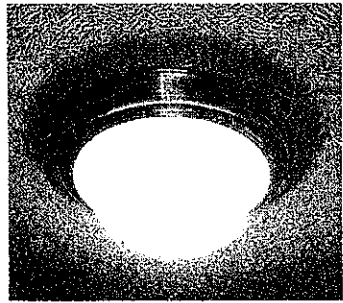
ど高額で長期に使うものでも、女性の声や関与が影響し、購買決定権の七〜九割を女性が握っているといわれています。

一方、男性が主張して購入

システムで考え購入

③

を決めるものの一つに、太陽光発電装置があります。新築時、クリーンエネルギーへの共感を示しつつも、「まだ高



額だし、売電しても長期間でないと元が取れない。別のものに予算を」と考えるのが

妻。購入を考える夫は妻を熱心

に説得するようです。節電も、男性目線は発光ダイオード(LED)電球の購入などシステムで考えます。一方、女性目線は、暮らしの知恵や工夫で考える傾向があります。

先日、家族で話し合っ、自宅の玄関の照明をLED電球に写真に替えてみました。見るたびにエコな明かりがうれしくなります。節電には、男性目線と女性目線を合わせた「地球目線」が必要なのです。

(永田潤子・大阪市立大大学院創造都市研究科准教授)

おかいもの革命！

中日新聞 朝刊 生活面 連載

⑤ 2011年8月3日

⑥ 2011年8月17日

おかいもの革命！

仕事で仙台に行きました。

東北への応援の気持ちを含め、特産品「写真」をあれこれ買って帰りました。「三陸牡蠣復興支援プロジェクト」

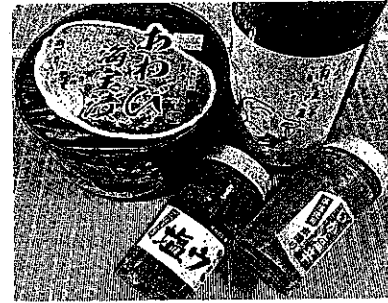
三陸牡蠣復興支援
プロジェクト

にも申し込みました。一口一万円で、復興後に三陸カキが約二十個届く仕組みです。カキをインターネット通販する店が運営しています。カキが手元に届くまで二丁

豊かな海を取り戻す

⑥

三年、もしかしたら五年以上再生にもつなげられます。そのかかるかもしれない。漁業思いを込め、楽しみにカキを待つことにしました。



大な資金と期間が必要です。カキ養殖業の復活は、震災前の海を取り戻すことに直結し、他の海の恵みや加工業の

復興には「産業の再生が鍵」との声が多く聞かれます。東北の物産展はどれも大盛況のようです。一時的なブームに終わらせず、食べるだけ、使っただけ、あとはなくなってしまう「消費」でもなく、次の何かを生み出す「生産費」につながる買い物でありたい。本来、買い物とは生産者と消費者の思いの循環だと思っています。

(永田潤子・大阪市立大大学院創造都市研究科准教授)

おかいもの革命！

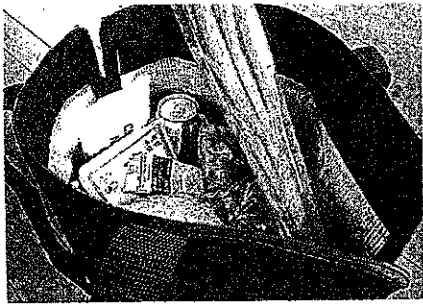
この時季の買い物には、食品を安心な状態で持ち帰るために、保冷剤が大活躍。冷蔵庫には、もらってきた保冷剤

保冷機能付き
エコバッグ

がたまりがちだと思えます。そこで、保冷剤で、回収して、繰り返し使う「リユース」がされていないか、調べてみました。回収しているスーパーや百貨店はありました。が、ごみとして処理している

夏でも「保冷剤は不要」

⑤



身や包装材によって処理方法はさまざまです。コストや手間を考えると現実的ではない

ところがほとんどでした。リユースには殺菌などの処理が必要ですが、保冷剤の中

に氷を使用しているところもありません。効果は、保冷剤とほとんど差がなく、溶ければ流せるのが利点です。

わが家では、エコバッグを保冷機能のあるタイプ「写真」に替え、「保冷剤は不要です」を実践中。先日の買い物では、エコバッグを見た店員が「それなら安心してお渡しできます」とごっこり。小さなことですが、夏の定番になりそうです。

(永田潤子・大阪市立大大学院創造都市研究科准教授)

おかいもの革命！

中日新聞 朝刊 生活面 連載

⑦ 2011年9月7日

⑧ 2011年9月21日

おかいもの革命！

連載タイトルになっている「おかいもの革命」とは、消費者、生産者、流通業者が協働し、脱温暖化を目指す取

消費者リーダー養成講座参加を

り組み。昨年からは、名古屋市中心に一般参加者も交え、「リサーチャーズクラブ」として活動しています。現在は、ユニーなどと共同で、より良い買物の基準づ

おかいもの革命！

靴は、リサイクルなどのエゴが難しいので、慎重に選ぶことが大切です。靴を長持ちさせる一番のポイントは、自

靴は選ぶ時が肝心

分の足の大きさや形に合うものを購入すること。サイズが合わない、靴のひずみや、すり減りの原因になり、早く傷んでしまいます。

デザインや値段を優先して買ったものは、その時は良く

足に合うか 最優先

価格やブランドよりも、質が良く、自分に合うものを購入することが、必要以上の買い替えを抑え、結果としてエコ



（永田潤子・大阪市立大大学院創造都市研究科准教授）

ても、だんだん履く機会が減り、靴箱の中でそのままになってしまつてもあります。

履く前に皮用の防水スプレーをすれば、水をほじくだけでも、汚れを付きにくくする効果も期待できます。ただ、購入後の手入れで長持ちさせることも大切ですが、選ぶ時こそが肝心。しっかり選んで買ったものは愛着がわき、大切に使います。販売員や専門家の知識を上手に活用しながら、よく考えて買う「賢い消費者」になりましょう。写真。

社会変える実践学ぼう

くり、簡易包装などをテーマに消費者と流通側が知恵を出し合い、問題解決を試みています。イメールシキヤクスターは、活動的で軽やかな主婦を



イメールシキ「リサ」イラスト。限りある資源を無駄にせず、快適さと効率性を両立させ

せるには生産者、流通業者、消費者の三者が情報を伝え合いい、学び合って「一緒に創る」関係性を築くことが大切です。なごや環境大学の「環境」で、十月八日から来年二月まで毎月一回開講する「おかいもの革命」消費者リーダー養成講座は、そんな考えに基づき、買い物から社会を変える実践講座。ぜひ参加してください。申し込みは事務局へ電話090(8675)8237へ。

（永田潤子・大阪市立大大学院創造都市研究科准教授）

おかいもの革命！

中日新聞 朝刊 生活面 連載

⑨ 2011年10月5日

⑩ 2011年10月19日

おかいもの革命！

塗り箸を使用する飲食店が増え、自分専用を持ち歩いている「マイ箸」を使う回数が少なくなりました。割り箸製造に伴う伐採を減らしたいと

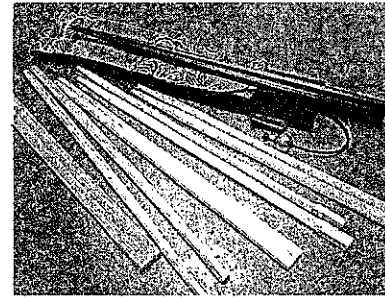
間伐材使用 国産の割り箸

いう森林保護の観点からは、割り箸を使わない方が良くと考えられ、マイ箸が普及しました。

国内に出回る割り箸の約97%は輸入品ですが、国産の割

森林の整備費に貢献

⑩



り、間伐材の有効利用につながります。間伐材が売れると、植林や間伐などの原資の

り箸は間伐材から作られています。国内の森林です。間伐材は、割り箸や小物などに用途が限られているので、国産の割り箸を使え

進んで使うことが効果的

しかし、国産は高価で、飲食店ではあまり使われないのが現状。大学の生協などでは、使つ人が五割程度を負擔するところもあります。ただ、残念ながら割り箸には「国産」の表示がありません。国産が見分けられれば、マイ箸ではなく国産の割り箸を使うのもいいと思います。

(永田潤子・大阪市立天大 学院創造都市研究科准教授)

おかいもの革命！

不要な物を見極めてそれを断ち切る「断捨離」や、片付け術が人気です。「いずれ必要かもしれない」と物を捨てられない人は、先延ばしばかり

回収ボックス 設置へ準備

りの人生だといわれかねません。私もドキッとして、片付けにはまった一人です。自分にとっては不用品でも、十分に使える物はどうしていますか？ インターネッ

使える不用品を寄付

⑨



るのも手です。

米国や英国、韓国などで、寄付された物の販売収益が地域や社会問題解決のため

トオークションやリサイクルショップで売るか、知人に譲ることが多いかもしれませんが、非営利団体などに寄付するようになります(写真は英国の回収箱)。

名古屋市では「中部リサイクル運動市民の会」が同様の仕組みの導入を目指しています。現在、第一号となる回収専用箱の設置準備中で、取り組みには、一般の方の意見も反映させます。問い合わせは、同会 電話 052(33)9) 5541111。

(永田潤子・大阪市立天大 学院創造都市研究科准教授)

おかいもの革命！

中日新聞 朝刊 生活面 連載

⑪ 2011年11月2日

⑫ 2011年11月16日

おかいもの革命！

買い物で疑問、要望が多いのが「容器包装」。詰め替え用商品を開発するなど、メーカーも環境負荷を減らすこと

簡易包装

努めています。品質保持や運送時の安全性などから、瓶入り化粧品のように詰め替え用商品を作れないものもあるようです。

どんな商品でも、包装を簡

消費者側から提案して

⑫

素化しやすいのは販売時です。百貨店など、店から簡易包装を進めるのが難しい場合でも、消費者の側から必要最低限の包装を要望する「エコ・スタイル」を実践すること。私たちも関わり、環境にやさしい化粧品や食品の販売で、積極的に簡易包装に取り組みます。店員の方から包装についての要望を尋ねるなど、消費者から「簡易包装にしてほしい」と伝えやすい雰囲気づくりをしていきます。紙袋や包装が不要な方はぜひ声を掛けてください。



箱に入った化粧品も紙袋を二重にされることが多い

(永田潤子・大阪市立大学院創造都市研究科准教授)

おかいもの革命！

親友から「ユーズ・ユア・チャイナ(自分のためにもボーン・チャイナの食器を使いなさい)」という言葉を聞きました。ボーン・チャイナは

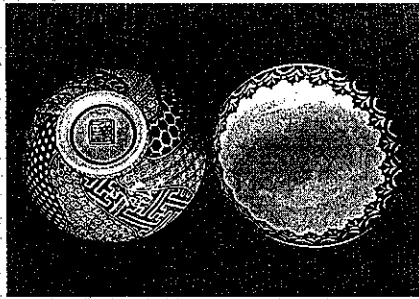
高級食器で自分もてなす

高級食器の代名詞。客用の少し上質な食器を自分用にも使うことは「自分をもてなす」ことを意味しています。少し広げて考えれば、自分たちの日々の暮らしに時間やお金を

長持ちし手入れも楽

⑪

かけることを実践するんですよ。わが家のボーン・チャイ



ナ、第一号は祥瑞の茶わんⅡ写真Ⅱです。精白な素地に美しい文様があり、手になじむ

重さど大きき。目でも楽しめる、ご飯がおいしく感じられま。気に入って何年も大事に使っています。もし欠けたら、修理して使つつもりです。お気に入りを丁寧に使うと、気持ち豊かになり、エコにもつながります。現在、低炭素型社会に向け、「JST名古屋プロジェクト」で検討している買物の基準の一つは、長持ちし、手入れが楽なものを選ぶこと。こうした基準を満たすと、幸福感が増すように思います。

(永田潤子・大阪市立大学院創造都市研究科准教授)

おかいもの革命！

中日新聞 朝刊 生活面 連載

⑬ 2011年12月7日

⑭ 2011年12月21日

おかいもの革命！

フィンランドを旅行し、スーパーマーケットを訪れました。平日は午前七時から午後九時まで営業していますが、土日は午後六時まで。写真。

土日は早く閉まるスーパー

知らずに土曜日の夕方に出かけたら、商品を片付けている。慌ててスーパーに残っているハムを注文しました。「また明日、買いに来て」と断られてしまいました。

おかいもの革命！

肉や魚を買うと必ず付いてくる発泡スチロール製の食品トレー。軽く、衛生的に鮮度を保てるので欠かせません。一人当たり年間二百枚以上を使

紙製リーフパック

っているといわれます。使用後は資源として回収され、リサイクルされますが、家庭で洗う手間などがかります。そこで注目されているのが紙製の「リーフパック」。リ

かさばらず、まな板にも

⑬



来年二月末まで、精肉売り場で発泡スチロール製のトレーとリーフパックの商品が選べ

る。 (永田潤子・大阪市立大大学院創造都市研究科准教授)

サイクルはできませんが、捨ててもかさばらず、まな板代わりに理屈を聞くと「冷凍しやわりにもなります」写真。アピタ緑店(名古屋市)では、からは「見た目がきれいではない」「持ち帰るとき、中身がつぶれそうで不安」との意見がありました。

現状では、流通時の作業効率やエコ度の見極めなど、まだ検討課題があります。どんな食品に向くかや、ごみ処理を含めた使い勝手など、買い手の声を反映させて改善を図ることが望まれます。

「不便＝不幸せ」でない

⑭



ではありません。正月にスーパーが閉まっていた子どものころ、年末に家族で正月用の

学院創造都市研究科准教授)

夜遅くまで営業し、客の要望に答える店は確かに便利ですが、でも、便利さがそのまま社会の豊かさにつながるわけを先読みしすぎなのかもしれません。

この夏、節電の観点から百貨店の営業時間や定休日を見直す動きがありました。不便だけれど、不幸せではない。エネルギーのあり方を考えることは、社会全体で何が大切なのを見つめ直すことにつながるのではないでしょう。

おかいもの革命！

中日新聞 朝刊 生活面 連載

⑮ 2012年1月18日

⑯ 2012年2月1日

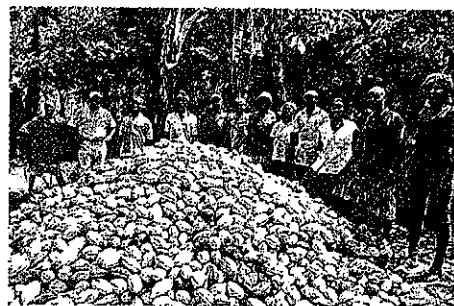
おかいもの革命！

間もなくバレンタイン。「チョコレート」を選べば世界が変わる」を合言葉に、チョコを通して開発途上国の貧困

チョコレボ

問題などを知ってもらおうと、昨年設立された一般社団法人「チョコレボ・インターナショナル」がチョコメーカーなどと協力しながら「チョコレボ」をPRしています。チョコレボとは、フェア

チョコで世界とつながる



リード（公正な貿易）のチョコが強く、安価で買ったたかれコなど、人と地球に優しいチョコを広げる活動です。コー賃金も受け取れない労働者が生まれ、児童労働も引き起こされ、大量生産による環境破壊も加速しています。

カカオ豆の産地、西アフリカ「写真」などのこうした現状を改善しようと、適正な価格で仕入れ、持続的な生産を支援するのがチョコレボの趣旨。絆が見直される今、バレンタインを機に、世界とつながる話題を伝えたいことも、今年風ではないでしょうか。

（永田潤子・大阪市立大大学院創造都市研究科准教授）

おかいもの革命！

同じ野菜でもハウスと露地栽培では、生産時に使用するエネルギー量に大きな差があります。省エネルギーセンター（東京）の試算では、ハウ

食卓からエコ

ス栽培のトマトは、露地の約十倍のエネルギーが必要で、消費地の近郊で作られた野菜なら、運送のエネルギーも少なく済みます。

旬の野菜 家族一緒に



もともと、エコだけで野菜を選ぶわけにはいかないもの。かといって、売り場での情報開示は産地と価格が中心。どの野菜が旬かさえ分りにくいのが現状です。昨年、私たちの「JST名古屋プロジェクト」では、旬のキヤベツや白菜、ブロッコリ

家族そろって食事をすると、温め直しなどでエネルギーを無駄遣いしません。旬のおいしい野菜を選び、家族だんらんを楽しみむと、環境に優しくなります。

（永田潤子・大阪市立大大学院創造都市研究科准教授）

おかいもの革命！

中日新聞 朝刊 生活面 連載

⑰ 2012年2月15日

⑱ 2012年3月7日

おかいもの革命！

暮らしの中に自然の力を活用する「植物療法」を実践しています。アロマやハーブだけでなく、森林浴＝写真、ガ

植物療法の実践

ーディング、食べ物まで植物の力が心も体も元気にしてくれます。

フランスでは、病院で薬とともにアロマオイルやハーブティーが処方され、病気の治療や予防に大きな効果を上げ

おかいもの革命！

住宅を購入するとき、何を基準に選ぶかを調べると大抵、価格や住環境、学校や買い物など生活の便利さ、間取りなどが上位を占めます。も

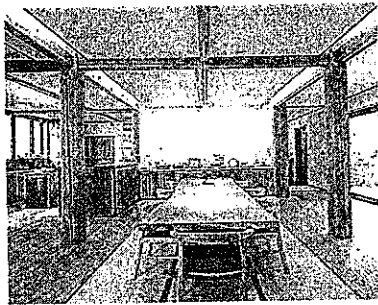
国産木材の住宅

ちろん、これらは重要ですが、同時に家族の年齢、構成によって変化する部分も含んでいます。

長く住むことを前提にしたとき、変化しない基準は、むしろ、調査結果の上位にはな

健康や環境にも配慮

⑰



い点、健康や安全、省エネ、耐久性といった要素ではないでしょうか。例えば、木材や

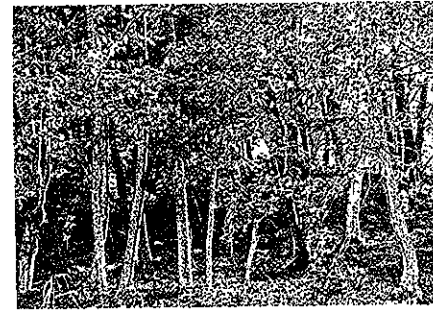
土壁など、住宅に天然素材を使う最近の動向を意識すれば、健康に配慮した家造りができ、国産の木材を使う場合

には、林業の再生にもつながります。これまで日本では、木材の流通が複雑だといわれてきました。最近ではシンプルで流通を担う動きがあり、製材用木材の自給率は四割まで回復しています。木材は環境負荷が少なく、使えば使うほど光沢が出て美しくなります。写真。大きな買い物だからこそ、健康や環境面など新しい動きにも目を向け、購入まで余裕を持って検討したいものです。

(永田潤子・大阪市立天大 学院創造都市研究科准教授)

生活全般見直す機会に

⑱



ているといえます。漢方薬も植物療法の一つ。塩麹や納豆、みそなどの発酵食品も

植物の力を活用しています。

あらためて伝統的な日本食や先人の知恵の素晴らしさを感じ

植物療法は根本原因や体質に注目するので、ライフスタイルや生活全般を考え直す機会にもなります。身近な植物の恵みを見直すことは地球からの恵みを見直すこと。その恵みを未来に残したいと、より環境のことを考えるようになりました。植物が気候の変動を敏感に感じ取るように、私たちの暮らし、未来に向けた持続可能な社会も環境や自然と切り離して考えることはできません。

(永田潤子・大阪市立天大 学院創造都市研究科准教授)

おかいもの革命！

中日新聞 朝刊 生活面 連載

①9 2012年3月21日

おかいもの革命！

「より良い買い物」の基準は商品によって異なります。私たちの「リサーチャーズクラブ」では、消費者のメンバ

より良い買い物

ーと「暮らしを見つめ直し、自分が大事にしたい価値や、ライフスタイルに合った買い物をする」ことが「一番大切」と語り合いました。写真。

例えば、キッチングッズ。

一人一人が意識する

①9



多層の流通販売者が「消費者の声
 ホーローを大事にしたい」と考えてい
 鍋は熱伝る点も発見でした。買い物の
 導がよとき、店員と会話をすること
 く、煮物が消費者の声を伝えること
 や蒸し料になります。一人一人が少し意
 理に最適識して動けば、社会を愛えら
 ますが、れるのではないかと感じま
 重さが気す。今後も、名古屋での「お
 かいもの革命」プロジェクトを続け、ウェブなどで発信
 していきます。

「メンテナン
 されている」
 が容易」「長持ちする」「新
 しい料理に挑戦できる」など
 ※「おかいもの革命」は
 も基準に挙げられました。今回で終わります。

(永田潤子・大阪市立大
 学院創造都市研究科准教授)